

学校運営協議会で活発な熟議をしていただきました。

熟議の柱

「平野の子どもをこんな子どもに育てたい。私たちができること」

「子どもが地域と関わり深めることができること」

熟議での主な内容

～さまざま視点から たくさんのご意見をいただきました。～

子どもたちの地域でのようすについて

- ・「ありがとうございます」が言える子どもに育てほしい。
- ・小学生の挨拶がよく感心している。
- ・平野小の子どもは大人にも挨拶ができる。毎朝子どもたちを見守っているが、子どもをリラックスさせる大人の気遣いがあるとよい。ちょっとした一言で子どもが笑顔になるような。こうやって地域のみんなが見守っているよということが子どもたちにも伝わっているといい。
- ・吹雪のなかの登校で泣いている女の子がいた。上級生に手をつないであげるよう話したら、その子が泣き止んだことがあった。かかわりを生むことになった。
- ・子どもたち静かで消極的な印象。地域住民ともっとざっくばらんな関係になるとよい。
- ・平野小はおとなしい子が多く、もう少しという思いもある。
- ・子どもが何かの問題に直面したときに、頼られる大人になるためには、我が子だけでなく地域の子どもたちが求めていることに関わる、接する大人でありたい。

子どもたちの自主性や地域の一員としてのようすについて

- ・能登半島地震の被災者への募金活動に見られるような子どもたちの思いを地域に知ってもらうことも大事と考え、地区長会長、コミセン館長、校長の連名で文書を地区に配付した。こういった自主性を大事にしていきたいと思う。

- ・防災訓練についても、地域の一員として地域と一緒に学ぶ機会になった。地域の一員として、思っていることを表現すれば変えられると思ってほしい。また、そういうことを地域の皆さんにもわかってほしい。
- ・地域の一員であることを大前提として考えれば、学校が地域に何かを返すということは余り考えなくて良い。子どもの思いを地域で応援しよう。学校の取り組みを地域は知らないので、情報を共有できるようにする。

地域と学校の関わりについて

- ・祭りへの参加や畑・田んぼの学習など地域に誇りを持つことで、平野に戻ってくる下地ができるのではないか。
- ・コミセン、学校、児童センター、学童が一箇所に集まっている利点を生かして連携を進めていきたい。それは平野地区だけ。みんなでやろうと思えば、何かできる地区。

地域の方々のボランティアについて

- ・こんなにたくさんボランティアの方が学校に来てくれた年はない。子どもの成長が見られ、地域の方も喜んでいただき、win-winの関係になっている。
- ・学校だよりや平野地区広報誌に掲載してボランティアを募集してはどうか。キノコの販売などもぜひ。平野地区は協力的な保護者が多いので家庭も巻き込んでいくこともできそう。
- ・現在は仕事をしているが、定年後は子どもたちに少しでも還元したいと思っている。
- ・見守り隊に入っているが、できるときにやるというスタンスで。義務になるとなかなか続けることが難しくなる。

祭りなど伝統の継承について

- ・地域の神社の祭りに参加させたい。平小獅子踊りとは違う伝統ある獅子踊りを体験させたい。交通マナーを守りながら祭りに行くこと交通安全を子どもたちに呼びかけたい。
- ・子どもたちは、平小獅子踊りは知っているが、平山獅子踊りの起源を知らなかった。平小獅子踊りを教えながら、子どもと触れ合い、子どもと大人と一緒に踊る経験を大事にしたい。子どもたちは、こういう体験を通して「平小獅子踊りをしたい」「伝統を守りたい」という意識を持つのではないか。

読育と食育について

- ・生きる力を付けるためには、読育、食育は大事。

- ・学校評価の結果について報告のあった学校だよりで、読書とメディアについての児童と保護者のギャップが気になった。それは課題にすべきではないか。

読書について

- ・職業選択でつますいたときに、本を読んだことが助けになることもある。母親委員会で読み聞かせをしたときも、自分が助けられた絵本を紹介したことがあった。
- ・読書について、子どもがこうしたいという思いに大人がどのように応えるかが大切、例えば子どもがベスト1を決める。
- ・最近感じることは、文字に関心を持つ子が少ないこと。

食育について

- ・朝食をとらない子どもも増えている。食事と睡眠についても課題にしてはどうか。地域というと漠然とするが、まずは家庭で子どもにどう向き合っていくか。
- ・平野小学校は伝統的に良い歯の学校として表彰されてきた。来年度、家庭と学校で何かできないか。学校で今やっているがんばり週間で、親子で関わりを持って偏食をなくす取り組みにしていきたい。

メディアについて

- ・6年生くらいになると、ゲームをして徹夜するという話を聞く。PTAでアウトメディアに取り組んだことがあった。
- ・スマホで寝不足にならないように、家庭でのしつけが必要。

学習について

- ・今年度、4年生に授業で6回指導する機会があった。回数を重ねる度に質問したり、深掘りしたり成長が見られた。(こういった成長が見られるので)田んぼの学習も継続できるように、田んぼの校長先生を保全会でサポートできないか考えている。
- ・学習の仕方や学校の有り様が変わってきた。学校の意義は、お互いにつながること。人口減少のなかで大事にしたいこと。
- ・好きなものがあることが、学力に関係してくるのでは。一つのことを目標にすることで、回り回って勉強になる。自分からすることが大切。学校以外でも、読書で歴史上の人物について知る等、どこに興味があるかわからない。いろいろな種をまくことが必要。
- ・職業選択や目標といった目的意識を育てることが大事ではないか。
- ・授業の中で、学校運営協議会の委員が地域の一員という立場から子どもたちに伝えたいことを伝えるといった時間があるといい

デジタル化について

- ・タブレット活用について、重いものを毎日持ち運びする目的は何か？

〈学校からの回答〉

学年によって、家庭学習の課題にだしたり、授業のまとめを提出させたり、欠席時の連絡につかたりしている。学年によっても活用状況が違うので、担当を中心に活用の仕方について実態を確認し、検討すべきところは検討する。

- ・スマホの所持率は？

〈学校からの回答〉

自分専用のもを持っている人に加えて、家族のものを自由に使える人もいれるとほぼ100%。

- ・デジタルがこれだけ普及しているから、会議の持ち方についてデジタルを活用したいと考えている。時間の削減や資料の準備の負担軽減など働き方改革にもつながる。働き方改革では、子どもと触れあう時間が増えたで終わらずに、触れあう時間が増えて「子どもが考えていることが理解できるようになった」というところが大事。先生方が、夜遅くまで仕事をしていることを心配している。